

携帯電話が子どもにもたらす弊害について (案) 資料 1

1. 携帯電話により、子どもが違法・有害情報にさらされていること

- ・携帯電話のインターネット機能により、様々な情報が、家庭、学校、地域を介さず、子ども達に直接伝わることとなった。
- ・大人は、子ども達がどんな情報にさらされているのか分かっていない。
- ・子ども達の方が携帯電話の機能に詳しく、親が使用実態を把握し、適切な指導ができていない。

- ・フィルタリングソフトを知らない保護者が約6割、利用する意向を持っているものの利用方法が分からない者が約4割
- ・フィルタリング機能を有するキッズケータイの購入を求めたにもかかわらず、フィルタリング機能が作動しない状態で売られた例もある。
- ・フィルタリングにより遮断できない曖昧な情報が多いため、この機能に頼らず、教育により見せないよう指導する必要がある。

- ・男子はネットにおいて性暴力を肯定する描写に触れた場合、性衝動の中にはまり込んでいき、それを性暴力として行動化していく。
- ・子ども達が違法・有害情報をきっかけに家出や危険な交友関係に発展するほか、オーバードーズ、リストカット等の危険な行為を模倣。
- ・誰もが援助交際をやっているという情報や避妊等に関する誤った情報が子ども達に流れた場合、子ども達自身のネットワーク内で広がるとともに、現実での実行を促進。

< ネット上の違法・有害情報の一例 >

- ・女性を監禁し、屈辱的な性行為を強いる動画
- ・人間の首の切断シーンの動画や殺人者の人生と手口を紹介したもの
- ・知人の自殺を美化したり、自殺仲間を募るもの
- ・未成年の女性向けの家出掲示板
- ・いじめを受けていた子どもの生活を日記ふうにご描写した非常に暗い携帯小説

2. 携帯電話により、子どもが非行・犯罪に誘う危険な情報にさらされていること

- ・寂しさを抱えた子は、自分を理解し、相手をしてくれる人を求めるため、善悪の判断を経ずに、短絡的に愛情とお小遣いを得ようとする。
- ・活動性の高い子どもは家庭で得られない愛情を外に求め、危険な大人に出会ってしまう。
- ・以前は両親が子ども達をある程度守ってきたが、メールによって瞬時に知らない人とつながれる。

- ・出会い系サイトにより援助交際等の非行に走る女の子が多く、そのほとんどが携帯電話を利用している。
- ・携帯電話により、遠くにいる不特定多数の人と容易に結びつくことが可能であるため、交友関係の把握が困難。
- ・出会い系サイトの利用には、身分証明が不要であり、年齢確認があっても、18歳以上と偽って簡単に入れる。
- ・ゲーム、掲示板、チャット等出会い系サイト以外のものも出会いの機会を提供。
- ・迷惑メールの80%が出会い系サイトの宣伝。フィッシング詐欺まがいのものもある。
- ・覚醒剤や睡眠薬、爆弾、架空口座のつくり方、駐車違反の反則金支払を免れる方法等の違法・有害な情報が氾濫している。

- ・中学・高校生の保護者のほとんどがメル友に会ったことがないと思っているが、実際は子どもの4割がメル友に会っている。
- ・出会い系サイト、求人・求職サイト、家出サイト等を通じて女の子が成人男性と接触し、児童買春・児童ポルノ等の深刻な福祉被害に遭っている。

< 出会い系サイトを通じた成人男性と女の子との接触例 >

- ・車で遊園地に連れて行ってもらったり、ペンダントを買ってもらったりすると、愛情に飢えた女の子であればお姫様になった気分となり、同年代の子とのつき合いを幼く思うが、段々この男も物足りなくなり、別の男と付き合った方がもっと楽しいのではないかと欲望をふくらませる。
- ・大人の大人が中学生の自分にパンティーをせがむ姿は最高に滑稽で、自分の価値が変に大きくなったように感じ、大人と対等に渡り合っているような錯覚に陥る。さらに、大人を軽蔑するようになり、そんなおやじを騙してやれと野心を持つ子もいる。
- ・女子(15)が小遣い稼ぎのため、モデル求人サイト中の「ビデオや写真を撮らせてお金を稼いでみませんか」との書込にメールを送り、3時間3万円で性行為の撮影を許してしまった。ビデオは個人で楽しむだけのことであったが、買春被疑者はAVの制作販売業者であり、わいせつ画像のマスターテープは1本50万円で売買されていた。

3. 携帯電話により、子どもの本来の育ちが阻害されていること

- ・子ども達は、それまでの人間関係が遮断される環境の変化などがあると、ネット、メールにのめり込み、そこでのコミュニケーションに没頭しやすい。
- ・従来1対1で密であった人間関係が、関係が悪くなるとすぐにリセットして他へ乗り換える1対多の人間関係に変容している。そのため、安定的な人間関係を築けない。

携帯、ネット、コンピューターは、教育、福祉、研究等の目的のためにも用いられるが、遊び、癒し、ショッピング等にも盛んに用いられており、近年では遊びの要素としてますます先鋭なものが見られている。



- ・携帯がないと落ち着かない、携帯を抱いて寝る、携帯がとめられた途端にパニックになる子もいる。
- ・メールによりすぐ連絡がとれるため、忍耐力がなく、衝動を抑えられない傾向が強まっている。
- ・些細なことで友達関係を解消するなど人間の思考を短絡的にし、プロセス抜きの結果重視主義を助長。
- ・遊び型で不登校の子どもは、しばしば深刻なメール依存に陥る。

- ・1日50通以上メールする中学生（全体の1割弱）は「できないとイライラしやすい」（22.9%）、「睡眠・生活リズムの乱れ」（29.8%）、「学校のことがおそれるようになる」（12.9%）等。
- ・メールの利用頻度が高い子は「友達が多く、外でよく遊ぶ」、「活動的で好奇心旺盛」、「対人関係にどん欲で社交的」、「注目されるのを好む」、「高い共感性」、「他者への依存傾向」、「家族より友達を重視する」、「いじめたことがあると応えた子の割合が高い」、「（完璧か最悪か等）両極端な思考」、「喜怒哀楽の激しさ」等

4. その他

< 教育の困難性等 >

- ・保護者、教師の中には、携帯電話の適切な使用方法について子どもに教えたいという意欲を持った方が増えているが、子どもに対して、どのように指導していいかわからない。
- ・指導をしても敢えて愚かなことをしてしまう子どもがいる。非行のハードルが低くなっており、敢えて愚かなことをする子どもには特別な指導が要り、別の枠組みで考えなくてはいけない。

< 大人社会への不信感 >

- ・大人がふしだらな世界を野放しにしていることに対し、子どもは不信感を募らせる。
- ・校則で携帯電話の持ち込みを禁止しているが、実際には持ってきている子が少なくなく、見つかったとしても教師によって対処の仕方が統一されていない。このため、持っていない子や持っていない子は不公平感や不満を募らせやすく、規則を守ることが絵空事になってしまう。

< 未成熟な子どもによる携帯電話の悪用、被害の深刻化 >

- ・相手の気持ちを考えずに、エッチな姿の画像や中傷誹謗等がメールで仲間内に瞬時にまわされ、深く傷ついたり、トラブルになったりすることもある。
- ・女の子のリンチ事件で、裸にしてかなりひどいことをした後、それを写メールに撮り、流されたものがある。被害が瞬時に拡大、深刻化する。

< その他 >

- ・子どもに携帯を持たせない、使用可能な機能を限定する等大人が共通認識を形成することが必要。
- ・警察による規制を強化すればよいというわけでもないが、表現の自由とはいえ、ネット上にわいせつや残虐な画像が氾濫している事態を何とかしなければならぬ。
- ・国民の中には、ネットの世界でもう一步取り締まってもいいとの意識があるのではないか。